

お知らせ

8月12日(水)～8月14日(金)は夏期休暇のため、組合事務所を閉鎖させていただきますので、ご了承下さい。

8月1日現在組合員数…2,013名



発行所
東京土建一般労働組合
南部ブロック会議
品川区戸越5-18-2
☎(3783)0471
代表者 井澤典一
定価 1部 50円
(購読料は組合費に含まれています)

誰もが幸福になるために、行動する勇気を

平和共同取材『靖国神社境内・内外見学』



河崎さん(豊越分会)

教育宣伝部長
河崎 弘樹

教育宣伝部では、7月5日(日)に教宣部員7名・組合員3名・家族1名・書記1名の計12名で、案内役に川口重雄さんを迎え、今年で5回目となる平和取材として、『靖国神社境内と、その周辺』を訪れました。

今年も平和取材の時期が巡ってきました。毎年お世話になっている案内役の川口先生より靖国神社境内「内」「外」と周辺の見学の提案をして頂きました。昨年に比べれば近く、また悩みの種である暑さ対策もなるべく開催日を早めることで回避できるであろうとのことと、7月5日の日曜日に、教宣部員以外の参加者4名を含む12名で行ってまいりました。

『靖国神社境内へ』

その後、高燈籠、品川弥次郎像、大山巖像を見学して、いざ靖国神社境内へ。大鳥居をくぐり拝殿に向かうまでの間、日清戦争の際に持ち帰った狛犬や様々な石碑、硫黄島やレイテ島など戦地の石がありました。

また、神門の手にある大燈籠の台座には日本の軍事的な勝利や軍神を称えるレリーフが左右合計14枚あり、これらが戦後GHQの目に留まれば軍国主義

『建物一つ取っても』

はじめに集会所である田安門付近から見える九段会館について、最初「軍人会館」という名称で軍人やその家族が宿泊や婚礼等を使用する場所であったのが、戦後間もなくGHQに接収され「アーミーホール」と呼ばれ連合軍の施設として使われ、接収解除後に日本遺族会に貸与され「九段会館」となったと説明がありました。

の象徴として破壊される可能性があったため、これをセメントで塗り固め隠し、日本が独立を回復した後にセメントを剥がしたとのことでした。

何より驚いたのは、この大燈籠を寄贈したのは生命保険会社であり、当時から戦争とビジネスは切っても切れない関係にあったという事でした。

そして靖国神社の原点となった「魂を呼び寄せる聖域」である招魂斎庭。こちらは国家のために殉じた軍人や軍属が祀られるのに対し、敵味方、軍民、国籍を問わない全ての戦争犠牲者を祀られる鎮霊社。この靖国神社の光と影ともいうべき2つの場所を見学し、今回の平和取材は終了となりました。

『当時の空気感に逆うつつは…』

先の戦争において靖国神社は、国家神道のもと

戦地に赴く人々に

旗中分会
津田 順子

第二次世界大戦の戦死者を祀っている場所というイメージだった靖国神社。まさかの戊辰戦争の戦没者を慰霊するために明治天皇の命で作られた

坂本龍馬や吉田松陰などの歴史に名を残す偉人も祀られていると聞くと「教科書で学んだ人達も実際に生きていたんだな」と妙に感心してしまいました。

そして境内にある大きな灯籠と神門は、それぞれ

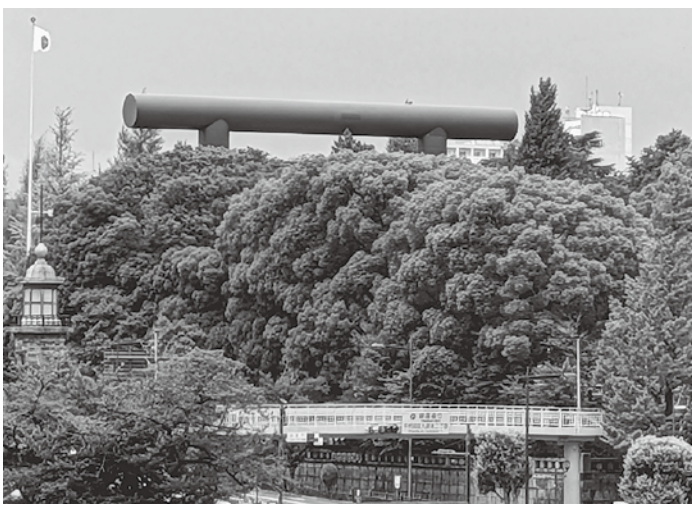
小さな物でも見逃さない

後地分会
博多屋 学

今回の平和取材は靖国神社と周辺の散策です。

初めて平穏な気候でしたが、先ずは神社前の北の丸公園に佇み、武道館の玉ねぎを見上げ気分を上げて、下のお堀を覗くと蓮に埋め尽くされた景色が圧巻でした。こういう旅がしたかったのです。

公園内の二体の像の説明を川口先生より受け、いざ靖国へ。初めてだったのでもちよっと楽しみでもまあ言うても神社で



九段会館テラスから靖国神社を望む

れが生命保険会社からの寄進による物で…何故生命保険会社？と不思議に思いますが、戦争に向かう人々に、「生命保険に入りましょう」と商売を

していたらしいです。それが仕事だから仕方ないですが、死と隣り合わせの戦地に赴く人々に生命保険…万が一の時には役に立つかもしれないけれども、「なんだかなあ」と違和感を覚えながら、帰路に着きました。

すから、参拝メインの簡単な散策だろうと思っていました。大いに驚けていました。

ここからは脇に入り、中央に戻り、裏に回り更に裏まで、縦横無尽に石碑や塔や遺物を見つけては解説してくれました。しかも物凄く詳しくです。本当は見たいものを伝えたかったのですが、私の頭では記憶出来ません。で

すから今回は川口先生の佇まいをお伝えします。どんな小さな物でも見逃さない、深く掘り下げ、そして行動する事を惜しまない姿勢、存分に勉強させて頂きました。今回の取材は私に取っては『神回』でした。



「別格官幣」の部分の切られた「靖国神社」の石柱

前

▼高市政権の改憲発言や大軍拡に対し、全国津々浦々で改憲反対・反戦デモや集会が行なわ

れているが、最近では市民や若い人や友達同士での初参加が増えていて、ペンライトや架空団体の

のぼり旗が多く見られる◆事の起こりは韓国で、前大統領を弾劾にまで追い込んだデモ◆「お金をもらって動員されている」等の誹謗中傷に、市民らが行動を起こし、

架空団体ののぼり旗を作ったデモに参加していった◆SNS等で知った日本の市民たちが、ペンライトや、架空団体ののぼり旗を作ったデモに参加するようになったのだ

が、なかなか面白い◆某新聞で紹介していたのぼり旗の一例では、『全日本体力ない人協会』『普通に反戦の市民』『もん

べは嫌だ着物が着隊』等々◆それぞれの思いも紹介されていた◆今回は割愛するが、デモに対する敷居が低くなっている

よう、のぼり旗を持っている人同士で交流もしている◆5月3日の憲法集会でも『誰デモ入れる市民の列』ののぼり旗に多くの人が並んでいるのを見た◆機会があればどんなのぼり旗があるのかデモに行ってみたい◆「市民としてカメ

ラを持つて」

(豊分会 富彌良則)

弱者の悲痛な声が

小山分會
石塚 良美

靖国神社。名前は知っているし、何となく戦没者慰霊のための神社で、総理大臣が参拝すれば色々、と、探めことのある神社だ、くらいの知識しかなくキチンと参拝にも行つたこともない靖国神社に平和取材に行きました。

最初に驚いたのは、靖国神社と書いてある石ノ塔。社号標と言うらしいですが、今ある石塔の上には『別格官幣』と書かれた部分があり、GHQ占領下の時に切られたという事です。

『別格官幣』とは、天皇に縁があり、国家に功績のある人を祭る社だそう、連合軍は天皇の影響力を大変恐れていたんだと感じました。

靖国神社となる前に、東京招魂社として明治政府が戊申戦争での倒幕連合軍の殉死者を祀るために創建され、後に靖国神社と名前が変わり、戦争ごとに国のために殉じた軍人、看護婦等の国に選ばれた人を祀っています。

当初から春と秋の2回に殉死した人の霊を祀る例大祭が行われており、その時天皇は来ませんが、天皇の使いの方が来るそう、それは今も続いています。

戦死を『栄誉だ』などと

南品川分會
櫻井 守

7月5日(日) 平和取材に元田園調布中高部教師の川口重雄さんの案内

7月5日午前9時半頃、九段下駅に到着しました。昨年の「原爆の図 丸木美術館」から2回目のフールドワークです。目的の地は「靖国神社」です。昨年に続いて戦争と関わりのある場所です。

1869年(明治2年)に東京招魂社として創設され、1879年に現社名に改称された。戦争の戦没者「国事殉難者」が祀られる。境内は桜の名所として知られ、開花の標本木がある。終戦当時、アメリカによる



「天燈籠」前にて

少し脱線して…

五反田分會
浅井 敏雄

7月5日午前9時半頃、九段下駅に到着しました。昨年の「原爆の図 丸木美術館」から2回目のフールドワークです。目的の地は「靖国神社」です。昨年に続いて戦争と関わりのある場所です。

1869年(明治2年)に東京招魂社として創設され、1879年に現社名に改称された。戦争の戦没者「国事殉難者」が祀られる。境内は桜の名所として知られ、開花の標本木がある。終戦当時、アメリカによる

いるということです。

鳥居をくぐり中ほどに創建に貢献し、暗殺された大村益次郎の像を過ぎると見えてくる。大天燈と神門。これは戦争が始まってからできた保険会社で、現在の富国生命・東邦生命が奉納したものだそう、戦中は随分儲けたんだな」と、企業は儲けて国民は戦争に駆り出され、大変な時代だと感じました。

戦死すれば、国が造った靖国神社に祀られると言われ、送り出された人もいたと思います。

現在国は、軍拡の傾向にあります。戦争をしない政治を、外交の話し合いで解決出来るように、政府には頑張っていたきたい。

靖国神社は明治2年、明治天皇の意思で東京九段に招魂社として創建され、明治12年に靖国神社と改名。今日に至っています。

当時の所管は陸海軍省で、明治天皇は15年間に7回も参拝されると記されています。

伊勢神宮に2回しか参拝されていない天皇が、日清・日露戦争で戦死、祭神となられた高位の人、また、身分の低い兵士を大切に思われたのか。

しかし昭和になり、軍国主義へと変貌し、靖国神社は太平洋戦争に突入する頃には戦没者の『栄誉』ある祭神となる。また、

天皇崇拜を徹底に教育し、若者を戦場へ駆り立て、太平洋戦争敗戦時、明治初年からの戦没者が240万余人祀られました。

若者、お国のため天皇へ忠心など、靖国神社は軍国主義の一翼を担ったのではないかと思います。

現在世界では、色々な



今にも動き出しそうな「肉弾三勇士」のレリーフ

地域で紛争が起こり、日本も対岸の火事と傍観して、いつ紛争に巻き込まれるかと心配でなりません。

一度と戦死を『栄誉だ』などと思う時が来ないよう、に願ひ、哀悼の念を持ち、取材をさせていただきました。



靖国神社本殿脇にある「鎮霊社」

先の戦争を忘れないよう

西品川分會
加藤 研一

一年前に教育宣伝部長になり、初め、平和と取材は、旧別格官幣社靖国神社境内(内外)で、案内人は川口さんでした。

我々がゆく神社には、何らかの御神体があると思っていました。靖国神社は違いました。

あるのは明治以来、天皇を中心とした政治家、権力者、達の政争の具とされた一市民、軍人ら、戦争で亡くなった人達の『魂』が祀られているのです。

戊辰戦争から太平洋戦争まで、幾多の戦争で亡くなった約240万人の『魂』が合祀されています。

日本一の大鳥居・記念碑・大村益次郎像(日本陸軍の父・大燈籠・軍馬・軍犬・軍鳩・慰霊碑等、境内どこかしこにあり、個人で行くのも良いですが、案内の方がいるとかなり違った角度から見ることが出来ます。

また、境内に戦利品も多数あります。明治から昭和の近代史(戦争の歴史)が多く詰まった博物館のようなものだと思います。

今、日本を取り巻く近隣の国々が軍拡に進み、我が国も自衛のためと軍拡を進めていくでしょう。先の戦争を忘れないよう、また、今後、靖国に祀られる人がないよう、願うばかりです。



「招魂齋庭」前にて

しながわ平和のための戦争展

—戦争ではなく平和の道を—

2026年
第42回

入場
無料

日時●8月20日(木)・21日(金) 10時～19時
22日(土) 19時30分まで 23日(日) 17時まで

会場●品川区民ギャラリー (イトーヨーカドー大井町店8階)

地域から戦争を見つめる。繰り返すまい戦争への道。戦争は人種差別から品川・荏原空襲の碑をつくろう 戦争ではなく平和を選びとるために

あなたも平和への思いを戦争展へ

俳句・絵手紙・書・絵など、出品募集 搬入展示手伝い・展示日の受付など 紙芝居・読み聞かせ・昔遊びなどでの出演者募集中

主催：しながわ平和のための戦争展実行委員会

連絡先：西條明子 〒140-0015 品川区西大井5-21-7 TEL03-5742-7563



靖国神社本殿前にて

八丈島分会の仲間が参加！窮状を訴える！

国保対策委員長
津田 光久



八丈島の窮状を訴える (奥山常任)



八丈島へ支援を訴える (奥山善男さん)

毎年この時期に行っている『対都要請行動』と7・8予算要求中央総決起大会が開催されました。

まず、東京都庁に集まり、各局各会派へ交渉団が交渉に向かいました。

私は保健医療局に参加し、皆様が一生懸命書いていたたハガキを携え、来年度の建設国保への都費補助金の確保と拡充と医療機関での受診に支障が生じないよう、資格確認書の円滑な交付と運用を訴えました。

都職員からの反応は、「皆様の状況は承知しているので、努力いたします」との回答でした。

保健医療局の他、財務局・都市整備局や都議会等13の交渉先に建設業の要求を要しました。

午後からは、場所をピジョンセンター(東京虎ノ門)とニッショーホールに移して、全建総連予算要求中央決起大会を、46都県連組合1024名の仲間参加で開催しました。盛大に決起大会が終了しました。

金子恭之氏をはじめ、8つの政界議員に要請を渡し、中東情勢の現況の対

策強化や、中小建設事業者の事業継続・雇用維持に向けた支援措置の拡充を要請しました。

また、衆参両院議員14名からは祝電が届き、盛大に決起大会が終了しました。

参加されました、組合員・家族の皆様、大変お疲れ様でした。

東京都連・全建総連
予算要求決起大会

7.8



33件のアンケートを集約



久々に嬉しい現場訪問行動！
33件のアンケートを集約！

7.6 地元建設三組合共闘・現場訪問行動

豊越分會・分會長
松井 広伸

7月6日(月)、15時30分に建設ユニオン城南支部に集合し、地元建設三組合共闘で、現場訪問を行いました。

参加メンバーは、東京土建4名、南部建設3名、建設ユニオン4名、松永品川区議の12名でした。

品川区内の公共工事現場として、品川区立源氏前小学校改築工事現場を訪れ、ズバットアンケートを行ないましたが、皆さん大変協力的で、33件のアンケートを集約することができました。

アンケートに協力していただいた方には、①チラシ2種類②スポンジドリンク③タオルの入った袋を渡しましたが、ほぼななりそんな勢いで、整備員さんや監督さん、大



地元国会議員・都議会議員要請行動

石原環境大臣執務室にて

建設国保安定運営に向けた要望を伝える

しのはら都議事務所にて

『席替えタイム』で新たな“つながり”が広がる！

仲間とつながる交流会 ～NA・TSU・KO～開催！



今回は、着席での開催！

7月15日(水)、仲間とつながる交流会～NA・TSU・KO～が57名の参加で開催されました。今回は、参加者同士がより深く、かつ多くの仲間と温かい交流を育めるよう、従来の立食スタイルから、じっくり会話を楽しめる着席形式へと移行し、食事メニューもリニューアルしたほか、ビング大会の時間をあえて

今後積極的に

品川分会

中野 貞治

今回「仲間とつながる交流会」に初めて参加しました。普段は自分の職種の

人々と接する機会が多いので、様々な職種の方と交流できたことは、とても新鮮で有意義な経験となりました。

それぞれの仕事の内容や苦労、普段絡むことがない解体屋さん等の話を聞いたことは勉強になりました。

途中席替えもあり、他の分会の方とも交流ができ、新しい「つながり」ができたことは良かったです。ビング大会も会場全体が盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができました。

今回の交流会を通して、一回参加したくらいでは「つながり」はできないかもしれないですが、回を重ねていけば、自分にとって利益につながる可能性はあると思いました。

今後このような機会があれば積極的に参加して、色々な職種の人と交流を持てたらいいなと思います。

いっぴく



白内障

小山分会

渡辺 博明

ので詳しい検査も受けることにしました。

すると、思いがけず白

ある朝、目が覚めると左目が真っ赤になり、近くの眼科を受診しました。診察の結果、赤くなった

原因は寝ている間に目をこすったことによる結膜下出血とのこと。一安心

しましたが、せっかく

明され、その言葉を聞いたのは手術後です。

4日間は頭を洗うこと



いました。

当日は、誕生日で

中延分会

赤川 拓郎

『仲間とつながる交流会』(※NA・TSU・KO)に参加させていただ

ことができました。恒例のビング大会では、当日は自分の誕生日(※7月15日)だったからか、一番でビングすることができ、高級なステーキ肉のギフトをいただきました。

今回で3回目の参加となりますが、初めて着席式になっていて、食事やお酒を飲んでも疲れなくて助かりました。

ただ、どうしても最初は顔見知りと固まってしまうのですが、途中から『席替えタイム』を設け、工夫されていたので、たくさんの方と交流する



お誕生日&ビング達成おめでとう！

あっという間に、初日分完売！

第54回

八丈島夏祭りに出店

「八丈島分会発」

7月18日(土)から19日(日)にかけて、第54回八丈島夏祭りが開催され、今年も東京土建八丈島分会として出店しました。

例年通り、「財布に優しい夜店」をモットーに、おもちゃの販売をしました。午後4時30分からお祭りが始まりましたが、最初はテントの場所が昨年と変更されたことと比較的静かな出店でした。

しかし、時間が経つにつれ、親子連れや子供たちが友達と



比較的静かなスタートでした



あっという間に完売間近！

仲間が作った道

—組合の歩みを読む—

東京土建の歴史①

前号までは『労働組合の誕生』についてのお話でした。

イギリスの『パブ(※居酒屋)』で、仲間が病気やケガをした時に、それぞれの給料の一部を出し合

つて助け合う仕組みを作ったことがきっかけでした。

日本でも近代的な労働組合が、1897年(明治30年)に発足するのですが、(※それ以前にも職人組織はありましたが)その歴

本労働組合全国協議会(主協)であり、全協の産業別組合確立の方針を受けて、1931年(昭和6年)に結成された『日本土木建築労働組合』で

この全協の中に、戦後の東京土建結成に参加した方々があり、当時、石工の賃上げと石工組合の民主化をかねて闘っていました。

『東京土木建築組合』に『関東石材労働組合』が合流し、翌年1947年(昭和22年)1月15日、台東区の下谷公会堂で石工を中心

に終戦を迎え、第二次世界大戦敗戦の混乱の中、他産業と同じように建設産業でも労働組合の結成準備が進められました。

一つは1946年(昭和21年)8月に石工組合を再建するために、大田区池上の徳持会館で結成準備を進めていた関東石材労働組合。もう一つは、同年11月に『東京土木建築組合』が準備会を結成しました。

そして、同年12月15日、『東京土木建築組合』に『関東石材労働組合』が合流し、翌年1947年(昭和22年)1月15日、台東区の下谷公会堂で石工を中心